令和８年10月21日
健康医療部熊本県派遣職員報告会（部内職員研修）

保健師等チームの活動報告について

八代保健所管内（氷川町）における支援活動について





【５班】

高槻市保健所　こじま

岸和田保健所　やまいで

四條畷保健所　あらい

富田林保健所　うめむろ

01　令和８年　熊本地震の被害状況



地震の影響で折れた日本製紙八代工場の煙突





地震で倒壊した民家

被害の状況（総務省消防庁、2026年8月23日10時00分時点）

都道府県	人的被害（人）				住家被害（棟）			
	死者	重傷	軽傷	合計	全壊	半壊	一部破損	合計
福岡県	-	1	1	2	-	-	8	8
熊本県	38	31	329	398	1,629	2,258	20,230	24,207
大分県	-	-	1	1	-	-	-	
鹿児島県	-	-	1	1	-	-	-	
合計	38	32	332	402	1,629	2,258	20,238	24,215

参考：朝日新聞 熊本県で最大震度7 被災状況マップ https://www.asahi.com/special/photo-map/?theme=disaster01

熊本県を震源とする最大震度７（宇城市・氷川町）の地震が
7月28日午後４時27分発生

参考：総務省消防庁　災害情報一覧
https://www.fdma.go.jp/disaster/info/2026/

02 保健師等チームの派遣

【目的】災害発生時に被災者の生命・安全な暮らしの確保を図り、避難生活に伴う**二次的な健康被害**（災害関連死や体調悪化など）を予防しながら、被災地域全体の早期復興へ向けた支援を多職種・関係機関と協働で行うこと

▷大阪府チームの派遣

班	期間	メンバー	
1	8/3 （月）～8/8 （土）	保健師 2名	ロジ役 2名
2	8/8 （土）～8/12（水）	保健師 2名	ロジ役 2名（管理栄養士）
3	8/12（水）～8/16（日）	保健師 2名（寝屋川市）	ロジ役 2名（管理栄養士）
4	8/16（日）～8/20（木）	保健師 2名（東大阪市）	ロジ役 2名
5	8/20（木）～8/24（月）	保健師 2名（高槻市）	ロジ役 2名
6	8/24（月）～8/28（金）	保健師 2名（八尾市）	ロジ役 2名（管理栄養士・寝屋川市）
7	8/28（金）～9/1 （火）	保健師 2名（豊中市）	ロジ役 2名（吹田市）



▷派遣先：八代保健所管内 氷川町

＊**八代保健所**：管轄1市1町（八代市11.8万人、氷川町1.1万人）
職員27人（医師1、保健師７、管理栄養士１、獣医師２、薬剤師２、臨床検査技師４、衛生検査技師２、行政職８）

03 氷川町の概況



吉本地区
（日奈久断層帯の
活断層沿い）

＊平成28年熊本地震
＊令和7年8月豪雨
災害でも大規模浸水
被害

【地形的特徴】
町域の大部分は八代平野の一部で平坦な地形。
東側はなだらかな丘陵地帯で野津古墳群などの歴史的遺産が多い。
西側は八代海に面し温暖な気候。
町の中央部を氷川が流れ、豊かな水環境と肥沃な土壌。

人　口	1.1万人
世帯数	4,500世帯
高齢化率	39.0%（県平均31.6%）
地　区	19地区
保健師	5名

基幹産業：農業
（吉野梨や晩白柚、い草）
＊技能実習生が多い

8/20現在 ▷**ライフライン** 停電なし、断水364戸（解除率89%）
▷ 住宅被害調査　51.5%実施済み
▷ 避難所の状況　155世帯　325人が避難

避難所	世帯数	避難者数
竜北東小学校	40	98
竜北西部小学校	47	87
氷川中学校	35	69
氷川町公民館	24	34
宮原福祉センター（母子）	9	37

＊小中学校の授業再開に向け、8/23・25に引越し2か所に拠点化
（教室から体育館等の移動を含む）

04 氷川町への応援状況

▷応援チーム・団体（拠点：氷川町健康センター）

保健師等チーム（応援自治体）	役割
宮崎県	要援護者*・要支援者訪問** ＊地域包括リスト掲載 要配慮者 医療的ケア児者(インシュリン等) ＊＊全戸訪問で要支援と判断した者
鳥取県	
愛媛県	全戸訪問
京都府	
大阪府	
岩手県	
大阪市	避難所支援 （8/22～全戸訪問）
佐賀県	

主な応援チーム・団体
DHEAT
DMAT
JMAT
災害支援ナース
HuMA
PCAT
ピースウインズ・ジャパン
JRAT
JDA-DAT
DWAT
MSW協会
介護支援専門員協会



氷川町健康センター（島地地区）

- ▻町の中央（青マーカー部）にあり役場の向かい
- ▻庁舎の被害なし、水道復旧済み、トイレ使用可
- ▻周辺に商店・コンビニ等はないが、氷川町内のコンビニ・弁当屋が開店



05 保健師等チームの活動①



【一日のスケジュール】

時間	活動内容	備考
6：30～6：45	ホテルを出発	
8：00	氷川町健康センター到着	
8：00～8：50	戸別訪問準備	＊住宅地図で世帯調書の住宅を探しマッピング
8：50～9：00	**保健師等チームミーティング**	＊司会：リーダー県
9：00～9：15	**全体ミーティング**（４チーム合同）	①在宅支援、②避難所支援、③福祉避難所支援、④施設支援
9：15～9：30	戸別訪問準備	＊訪問準備（世帯調書・被災者支援制度・栄養・こころパンフレット等）
9：30～11：30	戸別訪問	
11：30～12：15	訪問結果入力等	＊kintone「健康調査」に入力
12：15～13：00	（昼休憩）	
13：00～13：30	戸別訪問準備	
13：30～15：00	戸別訪問	
15：00～16：00	訪問結果入力等	＊15：30頃 氷川町保健師とリーダー県が応援県の訪問結果を確認
16：00～16：20	**保健師等チームミーティング**	＊司会：リーダー県
16：20～17：50	翌日の戸別訪問準備等	＊ミーティングで決定した訪問地区の世帯調書から準備
18：00頃	氷川町健康センター出発	
19：30頃	ホテルに到着	

06 保健師等チームの活動②

最高気温36～38℃
住民から応援職員の**熱中症**を心配する連絡あり！

【戸別訪問】保健師・ロジ2人1組で訪問（2班に分かれて）

〈在宅の場合〉

＊住宅被害調査が済んでいない住宅には入らず玄関前で聴き取り

①世帯調書の構成員全員の所在を確認
（日中・夜間の移動、別世帯者の居住の有無）

②健康状況の確認（健康状態、疾患の有無：受診・投薬状況等）

③生活上の困りごとを確認

④支援制度一覧（罹災証明・住宅関係・貸付・生活支援・災害ごみ・ボランティア）と健康に関するパンフレット（ストレスチェック・栄養・ストレッチ等）を渡す

⑤支援が必要な方は、要支援者としてkintone「健康調査」に入力

〈不在の場合〉

①表札で居住が確認できる場合、支援制度一覧・健康パンフレットをポストイン

＊居住確認できない場合は再訪問、または区長・民生委員（65歳以上高齢者）に居住を確認





07 保健師等チームの活動③

【要支援者の基準】

1 健康・医療	薬がない　通院できない　持病が悪化　体調不良　精神的不調　不眠　ストレス
2 介護・福祉	介護者がいない　デイサービス停止　介護用品不足　見守りが必要　認知症対応が困難
3 住まい・避難生活	自宅が危険　避難所環境が悪い　仮設住宅希望　片付けができない　入浴できない
4 食料・生活物資	食料不足　飲料水不足　オムツ不足　ミルク不足　衣類不足
5 ライフライン	断水　停電　通信障害　ガス停止
6 移動・交通	通院できない　車が使えない　公共交通停止　買い物に行けない
7 経済・申請手続き	生活費不足　保険証紛失　罹災証明　支援金申請　金融機関利用不可
8 情報・相談	制度が分からない　相談先が分からない　情報が届いていない　多言語対応が必要
9 その他	自由記入

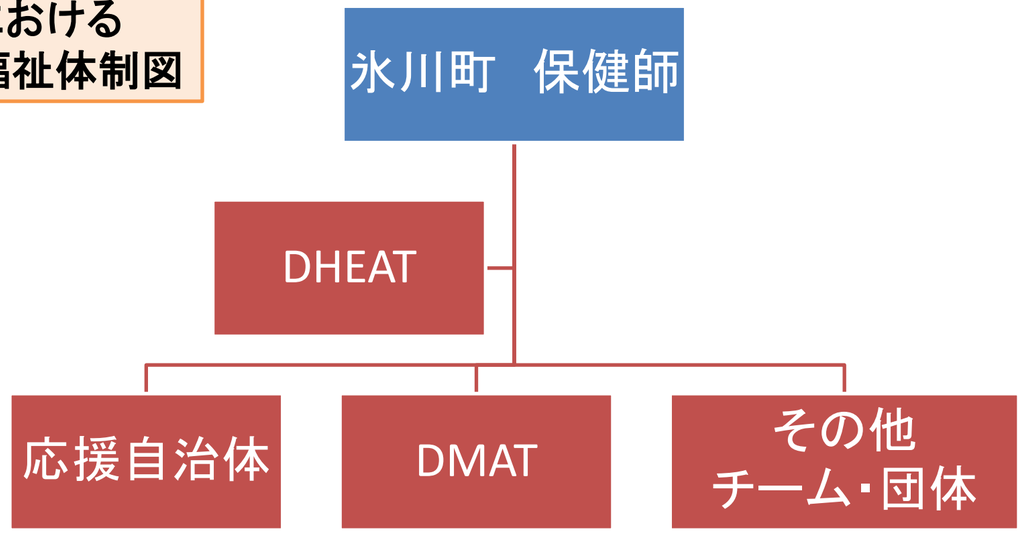
フェーズ２～３（応急対策）－生活の安定－

・発災後、3週間が経過しており、ライフラインが復旧している状況で要支援者の判定が多数（8/19時点:140件）⇒基準の徹底を周知

・医療機関は開設しているが、電車・バスが動いていないため受診不可、住宅被害調査が未、こころと身体の不調者が増加している

08 保健師等チームの活動における課題

氷川町における
保健医療・福祉体制図



＊氷川町は方針として全戸訪問を掲げ、
全戸訪問と要援護者訪問を並行実施。

＊指揮命令系統が明確でなかった。

＊データ管理ができないため、同一世帯に
数チームが重複訪問する等の事象が発生。

【課題と感じたこと】

1．保健師等チームは、指揮統制を取る人がおらず、応援自治体が日替わりでリーダーを担当したため、在宅支援（全戸訪問・要援護者訪問）の方針を決めることが難しかった。

2．住宅地図が現状を反映しておらず、マッピング時にgoogle mapを活用することが多々あった。また、地区概況を応援自治体と共有するツールの準備等、環境整備が必要と感じた。

3．要支援者の基準が徹底されておらず、要支援者が多く判定され、再訪問等に多くの時間と人員を割いた。

4．kintoneのcsvデータ出力（地区別の「世帯数」、「訪問済件数」、「要支援者数」）ができないため、在宅支援の全体像を把握することが困難だった。データを有効活用できるよう、状況に応じた個人情報管理のルール作りが必要。

09 派遣を通じて得られた気付き

◇大阪府が被災した時に
どんな準備が必要か考える
貴重な機会になりました。

◇地域コミュニティの重要性を
再認識しました。

◇災害時の活動は、普段の保健
活動の延長だと実感しました。

（民生委員・区長等、地域のキーパーソンや関係機関との連携）

しあわせが、そろってる。
氷川町

自助

- 停電に備えたバッテリー
蓄電池購入
- 関係者連絡先作成
- 避難先選定

障がい特性により
避難所で過ごせない方は、
自宅以外の避難場所を探
して自主避難していました

共助

- 近隣住民との関係づくり
（日頃からの顔の見える関係）
- 自治会活動
- 民生委員との連絡

ご近所の方が
全壊家屋から助け
出してくれました‼

自治体からの情報（給
水・配食サービス等）を
区長さんが戸別訪問し
て周知していました！

公助

～受援体制の整備～

- 住宅地図
- 地区概況の整理と共有
ツール
- 個人情報管理のルール等

地域の情報を共有
する手段がないと
動けません！